

JAPAN BRAND

時計文字盤コンテスト
作品募集要領

1 企画趣旨

株式会社天賞堂は、明治 12 年（1879）に東京銀座で創業以来、時計や高級貴金属等の販売を手がけ、オメガ、ユリス・ナルダン、ゼニスほか数々の世界的ブランドを日本へ初めて輸入紹介してまいりました。

一方、平成 13 年（2001）にはオリジナル腕時計の製造販売を開始し、平成 21 年（2009）には創業 130 年を記念して、日本が誇る伝統工芸表現技術を取り入れ、漆文字盤による新たな時を刻む高級腕時計開発を志し商品化いたしました。また同年、あわせて若手漆工芸家による腕時計文字盤コンテストを実施してその作品展を開催、伝統漆工の技がもたらす斬新で感性豊かな表現を、今後の漆工芸と時計の新たな世界の可能性に繋げる成果をあげてまいりました。

株式会社天賞堂はこうした実績をふまえ、日本の伝統の技が持つ繊細で高度な美意識と時計との出会いをさらに発展飛躍させて、世界に通用する時計文字盤のデザイン開発を行うことといたしました。この取り組みは、今般、平成 25 年度経済産業省 JAPAN ブランド育成支援事業に採択され、「伝統工芸文字盤腕時計海外市場開拓プロジェクト」として、広く工芸に携わる方々を対象に公募、実施するものです。

このプロジェクトが目指すのは、日本の伝統工芸の技を組み込んだ時計の新たな可能性を世界の高級腕時計市場に示すことにあります。ここでは、精確な時刻を知るための道具を超える、技と美の粋を集めた時計本来の魅力の創出を、多様な日本の伝統工芸固有の優れた表現技術によって試みます。

新しい日本発の腕時計開発に、工芸の技を自由で大胆な発想と工夫とをもって発揮していただきたく、皆さまの積極的なご参加をお待ちいたします。

2 経済産業省 JAPAN ブランド育成支援事業 「時計文字盤コンテスト」および作品展開催要綱

- 2.1 名 称** 「JAPAN BRAND 時計文字盤コンテスト」作品展
- 2.2 主 催** JAPAN BRAND 実行委員会
(株式会社天賞堂・株式会社北村工房・協和精工株式会社・株式会社パブリックアートカンパニー)
- 2.3 後 援** 経済産業省 石川県 輪島市 金沢市 (申請中)
- 2.4 協 賛** スウォッチグループジャパン株式会社、シチズン時計株式会社、セイコーウォッチ株式会社等に協賛要請中
- 2.5 会 期** 平成 25 年 12 月中旬～平成 26 年 1 月末の間で 1 週間の会期をもって開催予定
- 2.6 会 場** 東京銀座に所在するホール等を予定

2.7 賞

大賞 (1 点) ……賞金 30 万円
次賞 (1 点) ……賞金 20 万円
特別賞 (3 点) ……賞金 10 万円
奨励賞 (5 点) ……賞金 5 万円

応募作品のうちから、審査により 60 点 (以内) の入選作品を決定し、さらにその中から上記 10 点の入賞作品を決定します。

なお、60 点の入選作品のうちの一部は、将来海外展示会等への出展紹介、以降の技術開発のための試作品として使用される可能性があります。

各賞とも該当作品がない場合は、賞を授与しないことがあります。また支払われる賞金額は各賞賞金額から所得税を控除した金額となります。

2.8 審 査

次の審査員が入選作品および入賞作品を決定します。(順不同・敬称略)

秋元雄史 (金沢 21 世紀美術館館長)

山崎達文 (金沢学院大学教授)

鈴木耕一 (協和精工株式会社代表取締役)

高橋和幸 (株式会社パブリックアートカンパニー代表取締役 フォトグラファー)

竜崎智久 (㈲レジスター 時計プランナー)

新本桂司 (株式会社天賞堂専務取締役)

江田康雄 (株式会社天賞堂)

3 コンテスト作品募集要項

3.1 応募資格

本事業の趣旨に賛同し、応募条件、諸規定等を了解していただける工芸家の方々。

3.2 制作主題

作品制作者は、文字盤の基盤となる、指定配布される金属板上に、各種の技法をもって作品表現して下さい。文字盤作品は別記の図（→Ⅰ、Ⅱページ）に示された腕時計に組み込まれることを前提としています〔時計のケース（＝本体周囲部分）はゴールド色になる予定〕。受賞した作品は、実際に腕時計に組み込まれた状態で作品展に陳列、あるいは図録に掲載されます。

制作者は、文字盤が腕時計の中にはめこまれた完成形（時針、分針が付き、それらが可動する状態）を想定したうえで作品化して下さい。つまり、金属板は単なる作品の支持体ではなく、あくまでも腕時計の一部品であることを前提とします。ただし、腕時計の定義、すなわち作品である文字盤を取り付けたものを時計と定義し得るか否かについては、各人の自由な解釈によるものとします。

3.3 応募規定

3.3.1 応募作品は1人1点とします。

3.3.2 制作に使用する金属板は主催者が支給するもの以外の使用は認められません。
参加申込みの確認がとれた応募者に対して、逐次、事務局から専用の金属板を送達します。
なお、金属板の送付は参加申込み先着順とします。支給できる金属板の数に限りがあり、120点をもって締切りとします。

〔支給する金属板の仕様および使用条件等〕（→Ⅲページ参照）

- ・タテ 27mm×ヨコ 27mm の方形
- ・厚み 0.4mm の真ちゅう板→時計文字盤としての強度を損なう恐れがあるため、金属板を切削や研磨によって薄くする加工は、原則的に行わないようにして下さい。
- ・金属板には裏表、天地があります。加飾表現は必ず表面に、天地が正しい向きで行って下さい。
- ・金属板の裏面には、足（突起）が付いています。作品制作の際にこの足を折り曲げたり取り去ったりしないよう注意して下さい。

3.3.3 完成文字盤は、総高 1 mm 以内を条件に加飾表現を行って下さい。

〔金属板の厚み（0.4mm）＋ 工芸技術表現部分の厚み＝ 1 mm 以内〕

なお、漆工用の金属板は、原則として漆を焼付けたものを支給します（漆の焼付けが必要ない場合は金属板入手を申し込む際にその旨を申込み書に明記して下さい）。

3.3.4 応募作品の制作にあたり、その材料等にかかる経費は自己負担とします。

3.3.5 提出する文字盤作品の裏面に、必ず氏名を明記して下さい。

3.3.6 完成作品の送付、また上記 3.3.2 項による送付経費は自己負担とします。

- 3.3.7** 応募者に支給する金属板は、その後、応募者がコンペティションへ参加しなかった場合でも、必ず応募締切期限までにご返却下さい。
- 3.3.8** すべての応募作品は返却いたしません。
- 3.3.9** 作品は、腕時計としての実用に耐え得る一定の堅牢性や仕様をもって考案制作されるものとします。
- 3.3.10** 作品の制作は、他者の協力ないしは共同で行ったものであっても差し支えありません。また自らの費用により制作を第三者に委ねてもよいこととします。ただし作品は代表者一名をもっての応募として扱います。
- 3.3.11** 応募作品は、他者の知的財産権を侵食しないものとします。
- 3.3.12** 3.3.11 項に抵触することが判明した場合は、入選・入賞を取り消し、また、これによって問題の生じた場合は、応募者が全ての責任を負うものとします。

3.4 応募の手順

応募は以下の手順にて行って下さい。なお、応募に必要な各種の書類は次の URL よりダウンロードして使用して下さい。

→応募用書類入手先 URL : <http://www.tenshodo.co.jp/tabid/876/Default.aspx>

参加申込	2013 年 8 月～	応募希望者は「時計文字盤コンテスト参加申込書」に必要事項記入のうえ、以下宛先に①申込書を郵送、②FAX、③ファイルを添付したメールを送信、のいずれかの方法で送付して下さい。 【参加申込書、完成作品の送付先および制作についてのお問い合わせ先】 JAPAN BRAND 実行委員会 担当：佐藤 〒928-0001 石川県輪島市河井町五部252番地 TEL：0768-22-6910 e-mail：tokeimojiban2013@gmail.com
------	-------------	--



金属板送達 →制作開始	2013 年 9 月	応募者あてに金属板が支給されますのでそれを使用して作品制作を行って下さい。制作上の技術的な疑問点等については、上欄記載の JAPAN BRAND 実行委員会までお問い合わせ下さい。
----------------	------------	---



コンテストへ エントリー	作品完成後	応募者は、Web サイトのエントリーフォーム http://angel-store.tenshodo.co.jp/JAPANBRAND_mailform/ よりエントリーして下さい。 エントリーフォームには、住所、氏名等の応募者の情報のほか、制作意図等作品についての情報も記入して下さい。さらに、可能な方は、応募する完成作品を撮影した画像（携帯電話のカメラで簡単に撮影したものでも結構です）をエントリーフォームより投稿するようにお願いいたします。 <u>エントリーフォームに記入された制作意図および技法説明の文章は、図録制作等にあたり作品解説等のためにその一部または全部を掲載することがあります。また、この際に必要に応じて文章校正を行うことがありますので予めご了承下さい。</u>
-----------------	-------	--

作品を送付	作品完成後	作品は、以下の要領でお送り下さい。 【送付先】 JAPAN BRAND 実行委員会 （→4 ページ、参加申込書送付先と同じ） 【同封物 1】 次の項目を明記したものを同封して下さい。（書式は自由） ・ 氏名 ・ 住所 ・ 電話番号 ・ 作品名 【同封物 2】 受付け確認のための返信用はがきに返信先を明記したものを同封して下さい。 【注意事項】 ・ 提出する作品の文字盤裏面に必ず氏名を明記して下さい。 ・ 郵送、宅配便利用等方法は問いませんが、書留等安全な授受を考慮した送付をお願いします。
-------	-------	---

3.5 作品提出締切

平成 25 年 11 月 10 日（当日消印有効）

3.6 結果発表

応募作品の審査結果は、平成 25 年 12 月上旬の審査終了後、応募者宛直接通知いたします。
なお審査に関する個別の問い合わせ、および異議はこれを受け付けません。

3.7 表彰式

平成 25 年 12 月中旬～平成 26 年 1 月末に開催予定の展覧会初日

入賞作品（10 点）の各作者は、作品展会場において行われる表彰式にご招待させていただきます。
この時、自身の作品解説等を行っていただくことがあるのでご了解下さい。

3.8 その他

- 3.8.1 応募作品は、主催者の責任において管理しますが、作品の素材または構造上の欠陥、天災、その他通常の取り扱いの中で生じた傷や破損、災害等における事故については、主催者はその責任を負いかねますのでご了承下さい。
- 3.8.2 応募作品の所有権および著作権は、株式会社天賞堂に帰属するものとします。天賞堂あるいはその他日本の時計業界が応募作品の使用した商品企画を行う場合があることを予めご了解下さい。またその場合には、当該作品の作者に制作依頼や商品開発のための相談をさせていただきます。なお応募作品の著作権に関する取り決めが必要となる場合は、相互の信頼関係に基づき、誠意をもってその扱いを協議するものとします。
- 3.8.3 作品図柄および作品は、天賞堂ホームページ、媒体広告、パンフレットやカタログ等の印刷物等に掲載図版として使用させていただくことがあります。
- 3.8.4 応募作品に関して第三者との間で著作権その他の権利上の問題が発生した場合には、その責任は応募者が負い、応募者によって解決するものとします。
- 3.8.5 賞受賞者は、天賞堂の求めに応じ、その肖像写真および経歴を提出するものとします。天賞堂はその肖像写真および経歴を 3.8.3 項に掲げる目的に使用できるものとします。

3.9 個人情報の取り扱いについて

実行委員会事務局では、本プロジェクト実施にあたって、応募者の個人情報保護に最大限努めるとともに、その適切な収集利用と適正管理を行います。応募時にいただいた氏名等の諸情報は、本事業に関する以下の目的に限定利用し、それ以外には応募者の同意無しに第三者に開示・提供することはありません。

- 3.9.1 同展の企画・運営に反映させるため
- 3.9.2 不明、確認事項等が生じた場合、電話、電子メール、FAX、郵便等で連絡するため
- 3.9.3 本事業に関連する情報を郵便や電子メール等で連絡またはお届けするため
- 3.9.4 図録等制作のため、制作に関わる企業等に情報を提供するため
- 3.9.5 商品開発等、本事業から派生する個別折衝の必要に対応するため

3.10 問い合わせ先

作品制作上のご質問については 4 ページ記載の **JAPAN BRAND 実行委員会**宛へ、またその他の不詳の点は、下記までお問い合わせ下さい。

天賞堂広報室 担当：米川恒一郎

TEL：03-3561-0102 e-mail：japanbrand@angel-store.tenshodo.co.jp

3.11 実施スケジュール

平成 25 年 (2013)

- | | |
|-----------|---|
| 7 月中旬 | 石川県金沢・輪島において説明会開催、以降必要に応じて各地で説明会実施 |
| 8 月 | 要綱発表および募集開始
参加申込み受付および金属板の支給→ 応募者制作開始→エントリーおよび作品送付 |
| 11 月 10 日 | 応募作品提出締切 |

平成 26 年 (2014)

- | | |
|--------------------|---|
| 前年 12 月中旬
～1 月末 | 作品展および表彰式開催 |
| 1 月～3 月 | スイス等西欧、タイ等アジア各国、アメリカ、オーストラリアなどへの、本事業企画紹介および市場開拓活動 |
| 2 月以降 | 金沢、輪島等での作品展開催 |
| 3 月 | 平成 26 年度経産省 JAPAN ブランド育成支援事業、当プロジェクト継続申請応募 |

[参考 1]

銀座天賞堂の理念と工芸

株式会社天賞堂は創業当時から美術工芸家たちに装身具や置物製作を依頼し、皇室への御用達や勲業博覧会出品を行っていました。創業者江澤金五郎は、真に美しいもの、良いものを作って世に知らしめたい、我が国の美術工芸発展に寄与したいとする情熱を抱いていたのです。

明治 28 年 (1895) の第 4 回内国勲業博覧会出品彫刻作品の意匠図案懸賞募集もその現れで、大反響を得て 1000 点ほどの作品が集まったとされます。その作品募集広告文に、次のような金五郎の言葉が見えます。

「吾営業の我國風を代表すべき美術に属せるを、以て業間恒に此に留意し務めて國風尚美の實を揚げんとし、先づ意匠の重すべきを示し、併せて名案と名工との令譽を存し以て我國の美術工藝及び美術意向の上進を計り聊か國恩に報じ、兼て江湖の信用眷愛に酬ひんとす。江湖有志の諸君、願くは名匠奇案を送寄せられよ」(江澤富吉述 (『七十七翁回顧談』 1939)

ここに謳われているのは、美術工芸品たる製品を生み出す工芸家とその技に対する思いそのものです。今回の「伝統工芸文字盤腕時計海外市場開拓プロジェクト」も、この理念を発展させて企画いたしました。本プロジェクトが、工芸家の方々、その職種や産地の活性化、日本の時計業界の新しい展開に繋がるものであることを強く期待するものです。

【参考2】

機械式時計からクォーツへ、そして再び機械式時計へ

昭和45年（1970）、日本がクォーツ時計の販売を開始して以来、その先端技術は瞬くうちに世界を席巻し、機械式時計に置き換わっていきました。スイスはこれを契機に、世界をリードしていた時計産業から大きく後退しました。しかしその後、急速に業績を回復させて、今日、再び世界の時計産地の頂点に立っています。

その理由は、スイスが機械式時計の本質を見直し、長く培われてきた伝統的な職人の技と感性による付加価値を活かした時計づくりのブランド化に成功したからです。部品にはじまり組立てや複雑な機構メカニズム、時計の顔となる文字盤の新しい素材開発などを一体化させて、高いクオリティを追求し始めたのです。こうしてスイスは、機械式時計の伝統の奥深さをもって、正確無比なクォーツ時計との差別化を図り、芸術作品レベルの時計づくりの国として世界に復活したのでした。

【参考画像（本事業展開への実績紹介）】

天賞堂創業130周年記念事業

『新たな時を刻み始めた日本の美と技 若手漆芸家による腕時計文字版作品展』

2010.3 於：東京 銀座天賞堂



2011.4 於：金沢 石川県政記念しいのき迎賓館





過去受賞作品



THE ART OF JAPAN WATCH

語らずも、魅了できる、独自の世界観。

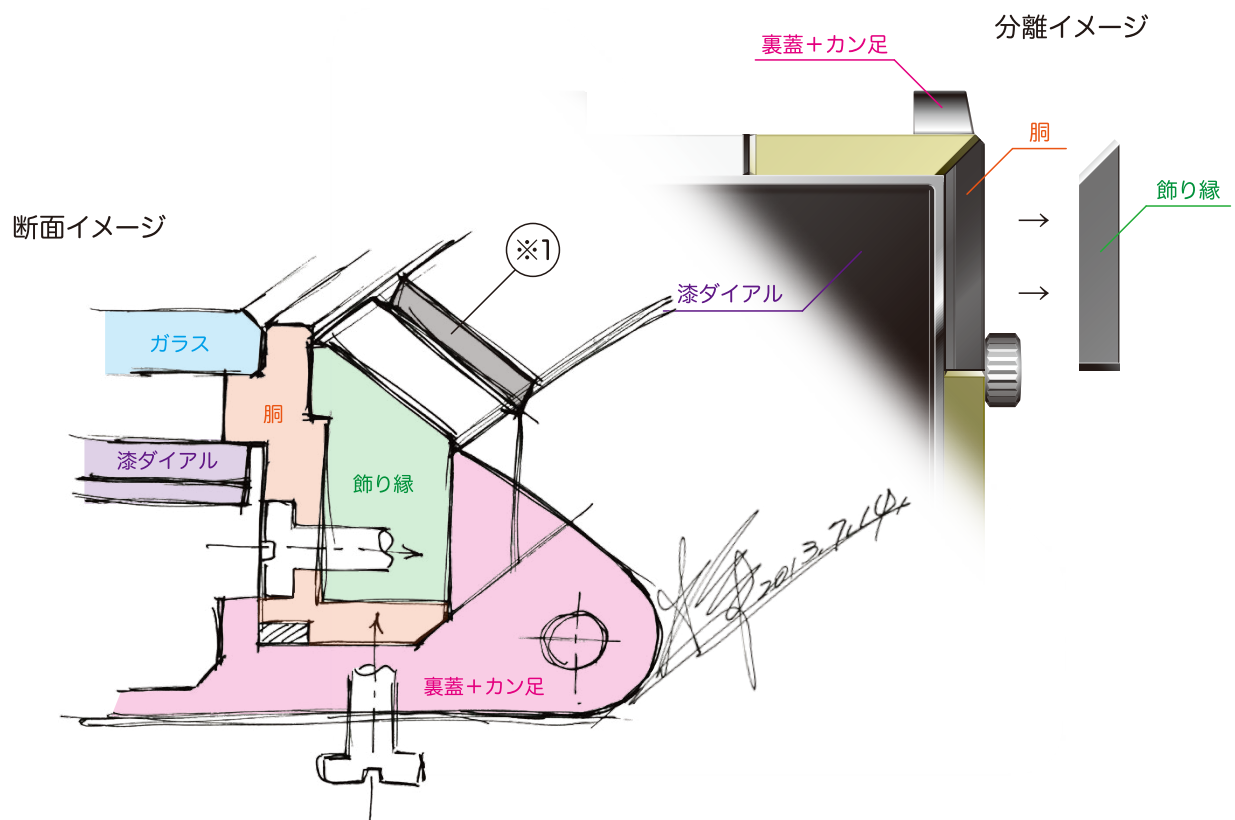


漆の魅力を引き立てながらも、印象的で存在感のあるデザインが、独自の世界観を構築。寄木細工のような組立て式の外装構造によって、細部まで最上級の仕上げを施すことができ、そして、個々の文字板イメージに合わせて様々なバリエーション展開が可能。

THE ART OF JAPAN WATCH

＜構造特徴&スペック＞

8個に分かれた飾り縁と、バンド固定用のカン足が一体化した裏蓋を、時計本体の内側からネジで固定して組み上げる画期的な外装構造を独自に開発。全てのパーツの表面を個別に仕上げることや、異なる素材等を組み合わせること可能。例えば、V字の溝部分(※1)など、隅々まで質の高い研磨ができる。



スペック ムーブメント：自動巻式（日本製）／防水性：日常生活3気圧防水
素 材 ステンレススチール／サファイア（両面無反射コーティング）／クロコダイル
サ イ ズ 側本体：縦35mm×横35mm×厚さ約10mm／バンド：24mm-20mm

【支給される金属板の図面】

